

やまのへのすくねあかひと
山部宿禰赤人の歌一首

一四三一番

くだらの
百済野の 萩の古枝に 春待つと 居りしうぐひ
す 鳴きにけむかも

おほとものさかのうへのいらつめ やなぎ
大伴坂上郎女の柳の歌二首

一四三二番

わが背子が 見らむ佐保道の 青柳を 手折りて
だにも 見むよしもがも

一四三三番

のほ
うち上る 佐保の川原の 青柳は 今は春へと
なりにけるかも

おほとものすくねあかひと
大伴宿禰三林の梅の歌一首

一四三四番

しもゆき
霜雪も いまだ過ぎねば 思はぬに 春日の里に
うめ はなみ
梅の花見つ